

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191600010		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームみずなみ(ききょう)		
所在地	岐阜県瑞浪市西小田町3-122		
自己評価作成日	令和4年11月16日	評価結果市町村受理日	令和5年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191600010-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191600010-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和4年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

何歳になっても、「その方のペースでその人らしい生活が出来るように」日々の生活をリハビリの場とし、食事のメニューに蛋白質や水分を多めに提供し、筋力を低下させないように筋力体操を強化し、高齢であっても何時までも元気に暮らせるように支援を行っている。(自立支援ケア)  
 コロナ禍以前はご利用者全員での外出や地域の方と協働してのイベント開催が行えていたが現在はまだ自粛中の為、コロナが落ち着き自由に外出等が可能になった時は是非又開催したい。  
 面会は玄関先で双方マスクをしアクリル板を使用し15~20分程度実施。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

《コロナ禍により、電話ヒアリングに代えて実施した》  
 ホームの目指す、「その人らしい生活」が出来るよう、チームワークよく取り組んでいる。職員間のコミュニケーションもよく、情報は共有され、利用者個々の状態に合わせた支援が提供されている。エリアでは自立支援ケアに取り組み、水分摂取や食事摂取に気を配っている。  
 コロナ禍により、「外出支援」や「地域の社会資源の活用」が出来ない状態であり、「ホーム内で出来ること」に積極的に取り組み、利用者の残存能力の維持や閉塞感の軽減に努めている。  
 コロナ禍終息後の取り組みについては、積極的に取り組む意思があることが確認できており、その取り組みに期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	MCSビジョンなどの理念を皆で共有し毎朝の朝礼に全員で唱和している。	法人の理念の周知・理解を促すために、法人の作成した認知症ケアについての冊子を活用し、ビジョン・ミッションを明確にしている。法人には研修計画があり、計画的に研修が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、ボランティアや地域活動等の交流を感染防止の為控えており、交流は出来ていない。	継続するコロナ禍により、積極的に外部と交流する機会は持てていないのが現状である。そのような中でも、ボランティアとの絵葉書の交流は継続して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により、キャラバンメイトとしての活動機会が減少しているが、地域の方々や学校を訪問して生徒さんへ認知症サポーター養成講座を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により従来どうりの外部からの参加者を集う事が叶わない為、事業者内にて開催し、行政には議事録を開催後提出を行っている。	運営推進会議はホーム内で開催し、利用者の状況やホームとしての活動をまとめ、議事録を作成して配付している。配付先からは特に意見や要望が届くまでには至っていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録、事故報告書の提出を行い、定期的に事業所の状態をお伝えし、施設見学の対応や入居者の紹介も頂いています。	行政に対しても、コロナ禍により、対面での意見交換は控えている。行政担当課や地域包括支援センターとは電話等での意見交換・情報交換が主になっており、相互の意志疎通に支障は出ていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社としてマニュアルがあり、身体拘束についてカンファレンスや申し送りでも再確認しております。ホーム内でも研修資料に基づいて年4回スタッフ全員で学習し、随時本社からのインフォメーションとして再確認を行っている。	法人全体での前向きな取組みがあり、マニュアルを整備し、研修が定期的に行われている。職員に対し、日常の業務を振り返るために「不適切ケアチェックシート」を活用し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス時に勉強会を設け虐待行為についての認識を常に確認し、虐待防止についての周知徹底を図っております。「絶対に行ってはいけないこと」として取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンス等で勉強会を行い職員の理解を深めるようにしております。関する研修は年1回実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、特に料金関係、起こりうるリスク、事業所のケアに対する考え方や取り組み(医療連携体制等)について詳しく時間かけ説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者の不安や希望を理解し、思いに添えるようにユニットごとに話し合いの機会を設けている。	利用者の意見や要望は、日常の関わりの中から把握するように努め、家族からは、訪問時や電話で把握するように努めている。利用者のホームでの様子を伝えることで、意見や要望を言いやすい環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを月1回行い、意見を聞く場にし、また、日頃からコミュニケーションを図るように声かけを行い、職員の要望や意見を聞くようにしている。	職員の意見や提案を聞く機会としては、毎月の会議や個別の面談がある。管理者と職員とは良好な関係が構築されており、日常的に話ができる環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は社員の日ごろの努力や実績勤務を把握し、表彰や賞与、努力への評価を行っており、向上心を持って働ける配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修会の情報を職員に提示し、積極的に参加を促し、得られた情報をカンファレンス等報告している。また、実務者研修、介護福祉士資格取、介護支援専門員等の資格取得を推進する支援制度が有る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括への協力や行事の参加を得て、コロナ禍ではあるが可能な限り、職員も同じように他の施設との意見の交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階においては、御本人にお会いして心身の状態や思いを受け止める声かけに努め、より細かい部分までの配慮を行い、入居時よりホームの生活に慣れる迄は、マンツーマンに近い形で寄り添い、不安の軽減を図るように工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御相談される御家族の思いを出来るだけ理解し、ホームとしての対応について事前にしっかり話し合う時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な方には、可能な限り柔軟な対応を行い、ホームとしてできることの可能性について提案させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい笑顔を引き出し有意義な生活を送って頂けるよう努めています。女性の方は掃除、洗濯物等、スタッフと毎日の生活の一部として行っておられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様にしかできない事を理解して頂き、生活の中での出来事や相談などで情報の共有に努め御利用者を御家族様と共に一緒に支えることができるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、以前の様な形での関係性を継続していく事は困難状況であるが、この状況下で許す限りの関係性を継続出来るように努めている。	対面での家族面会等は制限している。電話や手紙といった通信手段を使っての交流が可能な利用者には、それらを使って支援している。趣味・習慣、日常の家事などが、継続出来るように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者からお話を伺ったり、他の御利用者様を交えて楽しむ時間や、気の合うご利用者同士で過ごせる時間を作るよう配慮しています。。性格上関係づくりが困難な方には職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご利用中に築いた関係性を大切にしながら、長期に継続的なかわりを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望も違うので難しい点がありますが、なるべくその方の思いを皆で確認し希望に添えるよう努めている。	利用者が自らの意向や思いを表すことは難しく、日常の関わりの中で推し量るように努めている。把握した意向や思いは記録に残し、職員間で共有する仕組みが出来ており、会議や申し送りで確認・検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は御自宅に訪問し、入居後は本人や家族からお話を伺うようにし、又ユニット間で得られた情報は共有できるようにカンファレンス等で取り上げ、ホーム内の全体共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御利用者一人ひとり残存機能を活かすことを心がけ、その人の持つおられる強みを活かした働きかけを行ない、ご利用者それぞれの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者がその人らしく暮らせるよう御利用者やご家族の要望を聞きユニットスタッフと共にカンファレンスで意見交換を行い介護計画作成にいかしている。	モニタリングは3ヶ月毎に行い、介護計画は6ヶ月毎に更新している。利用者についての情報は「ケア記録」に残されており、それを参考に介護計画の更新時に検討し、家族の意向も踏まえて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった職員がそのつど御利用者個々のケア記録に残しており職員が常に確認できるようにして記録共有を徹底しております。又記録で本人の状況の把握を行い介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者や御家族の状況に応じ通院や送迎など必要な支援をその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、民生委員ボランティアの方との交流は中止しているが、他の地域資源を可能な限り利用し、コロナ禍でも楽しい生活が出来るように工夫に勤めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医や、以前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、御家族と協力し通院介助や訪問診療の対応を行い、複数の医療機関と連携をとりつつ支援している。	協力医の月2回の訪問診療がある。協力医以外の受診は原則として家族対応となっているが、ホームでの対応も可能であり、受診時にはホームから情報提供している。医療連携体制があり、常時対応可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置から、医療連携体制のもと24時間対応の訪問看護師へ移行したが、その時の状況に応じ訪問看護師からアドバイスを得ながら、御利用者の健康管理や状態変化に応じた対応を行えるように訪問看護師と連携を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーや口頭申し送りで御利用者の支援方法や情報を医療機関に提供を行い、医療機関のソーシャルワーカーや御家族と情報交換し回復状態を踏まえつつ速やかな退院支援を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要化した場合における医療体制指針を作成し、入居契約時に説明を行っております。又、状態変化に伴いそのつど御家族、医師、で話し合いをおこなっている。	重度化についての指針が作成されており、利用者の入居時に説明している。重度化に伴い、必要に応じて医師を含めた話し合いを持ち、利用者にとって最善の対応を検討し、方針を決めて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が年に一回消防署主催の救命救急講習会に参加している。又、夜勤帯の緊急時対応についてのマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回の消防訓練と地震発生時の避難訓練、夜間帯避難訓練を随時行っております。地域の協力体制については運営推進会議や民生委員を通して自治体に協力をお願いしている。	法人が作成したBCP(事業継続計画)があり、防災マニュアルが整備されている。法定の避難訓練が年に2回行われ、災害に備えた食料備蓄もある。停電対策用にポータブルバッテリーを備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルがあり、入居時に個人情報についての契約書を頂いております。年1回の研修も行き、特に言葉使い、態度に注意するようカンファレンスで話し合っている。	利用者の尊厳やプライバシー等に関する研修が、計画的に実施されている。職員は利用者との関わりで不適切な対応がないように、定期的に振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者が思いや意思を決定しやすくなるよう職員一人一人が御利用者の表情を読み取り関わりを多く持つよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者一人ひとりの態度や思いに配慮しながらその人のペースを大切に、その人がしたいこと出来る事を基本に支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に御本人の意向で決めていただき、自己決定のしにくい御利用者には必要時声かけ配慮をおこなっている。毎朝、ご自分で身だしなみを整え、自立しておられる方も何名かおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者と共に盛り付けや後片付けを行ったり、嫌いな食材を食べられる食材に変更し、食事が楽しめるように雰囲気づくりを大切にしている。	朝食は調理済の食材を使い、昼・夕食はホームで調理している。利用者が準備や片付けを手伝い、季節に因んだメニューの提供もある。利用者のリクエストには、誕生日会や食レクの機会を活用して応えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者に不足しがちな蛋白質や水分を多めに取れるように食事摂取量や水分摂取状況を毎日チェックし職員全員が共有できるようにしております。管理栄養士による献立を基本としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行い御利用者にあわせて必要な支援を行っております。就寝時は義歯をお預かりし洗浄剤につけるようにし清潔を保っております。また歯科衛生士による口腔ケアも取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のわからない御利用者は時間や様子を見計らってトイレにお誘いする事により快適に排泄して頂けるように支援しております。夜間は排泄パターンと睡眠のサイクルを考慮しチェックをおこなっている。	ホームの方針として、トイレでの排泄を基本として支援している。利用者個々の状態により、排泄用品の選定や介助方法を検討し、最適な支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	大豆製品、寒天、バナナ等の繊維質の多い食品を積極的に摂り、運動も併用し御利用者ひとりひとりに合わせ薬に頼らない便秘対策をしています。約10年前より毎日、ヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の予定は決まっているが、そのつど御利用者の御希望に柔軟に対応している。	週に2~3回の入浴機会があり、利用者の体調や意向を尊重し、拒否があっても無理強いしない対応を心がけている。入浴介助には基本的な手順が定められており、研修も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、体内のリズムを整え活動性のアップを図っております。又、御利用者の体調や希望を参考慮してゆっくり休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は御利用者の口に入れ、確実に服用されたかの確認をし、状態に変化が現れた場合は速やかに医師に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事支援を含めて得意な分野で、お願いできそうな事をして頂き、感謝の気持ちを必ずお伝えしている。コロナ禍でも楽しめる行事や、ホームでのテイクアウト品の購入など楽しんで頂ける事を御利用者と一緒に相談しながら、すすめている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外出自粛等の制限が会社より発令され、御利用者の希望は叶えられなかったが、買い物代行等の出来る限りの支援をおこなった。外出の規制発令時以外は自宅で家族様と交流をされた方は何名かいる。	コロナ禍の現在、外出は自粛している。利用者の気分転換を図るため、ホーム周辺の散歩や、車から降りないドライブは行っている。外出が制限されることにより、ホーム内で出来るレクを充実させることに努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の意向によりお小遣いの所持をすることがなくなったが希望される方には立て替えを行い買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望でご家族様へ電話を掛ける事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルにを基本として、ホーム内の飾りつけは御利用者と相談し御希望にあわせて職員と共に制作し季節感の感じられる工夫をしている。	コロナ禍により、電話ヒアリングに代えたため視察出来ていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや廊下に椅子を置き、居心地の良いつろげる空間を作っております。仲良しの利用者様の会話の場所でもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やベッドなど使い慣れたものをお持ち頂き、馴染みの空間で過ごしておられます。お孫さんや息子、娘様のご家族様の写真を貼って楽しみに話をして下さる。	コロナ禍により、電話ヒアリングに代えたため視察出来ていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者一人一人の理解力を判断しつつ、不安なく生活できるように状況に応じてその都度環境整備に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191600010		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームみずなみ(れんげ)		
所在地	岐阜県瑞浪市西小田町3-122		
自己評価作成日	令和4年11月16日	評価結果市町村受理日	令和5年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosoCd=2191600010-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosoCd=2191600010-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和4年12月14日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

何歳になっても、「その方のペースでその人らしい生活が出来るように」日々の生活をリハビリの場とし、食事のメニューに蛋白質や水分を多めに提供し、筋力を低下させないように筋力体操を強化し、高齢であっても何時までも元気に暮らせるように支援を行っている。(自立支援ケア)  
 コロナ禍以前はご利用者全員での外食や地域の方と協働してのイベント開催が行っていたが現在はまだ自粛中の為、コロナが落ち着き自由に外出等が可能になった時は是非又開催したい。  
 面会は玄関先で双方マスクをしアクリル板を使用し15~20分程度実施。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	MCSビジョンなどの理念を皆で共有し毎朝の朝礼に全員で唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、ボランティアや地域活動等の交流を感染防止の為控えており、交流は出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により、キャラバンメイトとしての活動機会が減少しているが、地域の方々や学校を訪問して生徒さんへ認知症サポーター養成講座を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により従来どうりの外部からの参加者を集う事が叶わない為、事業者内にて開催し、行政には議事録を開催後提出を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録、事故報告書の提出を行い、定期的に事業所の状態をお伝えし、施設見学の対応や入居者の紹介も頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社としてマニュアルがあり、身体拘束についてカンファレンスや申し送りで再確認をしております。ホーム内でも研修資料に基づいて年4回スタッフ全員で学習し、随時本社からのインフォメーションとして再確認を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス時に勉強会を設け虐待行為についての認識を常に確認し、虐待防止についての周知徹底を図っております。「絶対に行ってはいけないこと」として取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンス等で勉強会を行い職員の理解を深めるようにしております。に関する研修は年1回実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、特に料金関係、起こりうるリスク、事業所のケアに対する考え方や取り組み(医療連携体制等)について詳しく時間かけ説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者の不安や希望を理解し、思いに添えるようにユニットごとに話し合いの機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを月1回行い、意見を聞く場にし、また、日頃からコミュニケーションを図るように声かけを行い、職員の要望や意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は社員の日ごろの努力や実績勤務を把握し、表彰や賞与、努力への評価を行っており、向上心を持って働ける配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修会の情報を職員に提示し、積極的に参加を促し、得られた情報をカンファレンス等報告している。また、実務者研修、介護福祉士資格取、介護支援専門員等の資格取得を推進する支援制度が有る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括への協力や行事の参加を得て、コロナ禍ではあるが可能な限り、職員も同じように他の施設との意見の交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階においては、御本人にお会いして心身の状態や思いを受け止める声かけに努め、より細かい部分までの配慮を行い、入居時よりホームの生活に慣れる迄は、マンツーマンに近い形で寄り添い、不安の軽減を図るように工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御相談される御家族の思いを出来るだけ理解し、ホームとしての対応について事前にしっかり話し合う時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な方には、可能な限り柔軟な対応を行い、ホームとしてできることの可能性について提案させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい笑顔を引き出し有意義な生活を送って頂けるよう努めています。女性の方は掃除、洗濯物等、スタッフと毎日の生活の一部として行っておられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様にしかできない事を理解して頂き、生活の中での出来事や相談などで情報の共有に努め御利用者を御家族様と共に一緒に支えることができるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、以前の様な形での関係性を継続していく事は困難状況であるが、この状況下で許す限りの関係性を継続出来るように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者からお話を伺ったり、他の御利用者様を交えて楽しむ時間や、気の合うご利用者同士で過ごせる時間を作るよう配慮しています。。性格上関係づくりが困難な方には職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご利用中に築いた関係性を大切にしながら、長期に継続的なかわりを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望も違うので難しい点はありますが、なるべくその方の思いを皆で確認し希望に添えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は御自宅に訪問し、入居後は本人や家族からお話を伺うようにし、又ユニット間で得られた情報は共有できるようにカンファレンス等で取り上げ、ホーム内の全体共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御利用者一人ひとり残存機能を活かすことを心がけ、その人の持つておられる強みを活かした働きかけを行ない、ご利用者それぞれの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者がその人らしく暮らせるよう御利用者やご家族の要望を聞きユニットスタッフと共にカンファレンスで意見交換を行い介護計画作成にいかしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった職員がそのつど御利用者個々のケア記録に残しており職員が常に確認できるようにして記録共有を徹底しております。又記録で本人の状況の把握を行い介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者や御家族の状況に応じ通院や送迎など必要な支援をその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、民生委員ボランティアの方との交流は中止しているが、他の地域資源を可能な限り利用し、コロナ禍でも楽しい生活が出来るように工夫に勤めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医や、以前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、御家族と協力し通院介助や訪問診療の対応を行い、複数の医療機関と連携をとりつつ支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置から、医療連携体制のもと24時間対応の訪問看護師へ移行したが、その時の状況に応じ訪問看護師からアドバイスを得ながら、御利用者の健康管理や状態変化に応じた対応を行えるように訪問看護師と連携を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーや口頭申し送りで御利用者の支援方法や情報を医療機関に提供を行い、医療機関のソーシャルワーカーや御家族と情報交換し回復状態を踏まえつつ速やかな退院支援を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要化した場合における医療体制指針を作成し、入居契約時に説明を行っております。又、状態変化に伴いそのつど御家族、医師、で話し合いをおこなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が年に一回消防署主催の救命救急講習会に参加している。又、夜勤帯の緊急時対応についてのマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回の消防訓練と地震発生時の避難訓練、夜間帯避難訓練を随時行っております。地域の協力体制については運営推進会議や民生委員を通して自治体に協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルがあり、入居時に個人情報についての契約書を頂いております。年1回の研修も行い、特に言葉使い、態度に注意するようカンファレンスで話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者が思いや意思を決定しやすくなるよう職員一人一人が御利用者の表情を読み取り関わりを多く持つよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者一人ひとりの態度や思いに配慮しながらその人のペースを大切に、その人がしたいこと出来る事を基本に支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に御本人の意向で決めていただき、自己決定のしにくい御利用者には必要時声かけ配慮をおこなっている。毎朝、ご自分で身だしなみを整え、自立しておられる方も何名かおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者と共に盛り付けや後片付けを行ったり、嫌いな食材を食べられる食材に変更し、食事が楽しめるように雰囲気づくりを大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者に不足しがちな蛋白質や水分を多めに取れるように食事摂取量や水分摂取状況を毎日チェックし職員全員が共有できるようにしております。管理栄養士による献立を基本としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行い御利用者にあわせて必要な支援を行っております。就寝時は義歯をお預かりし洗浄剤につけるようにし清潔を保っております。また歯科衛生士による口腔ケアも取り入れている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のわからない御利用者は時間や様子を見計らってトイレにお誘いする事により快適に排泄して頂けるように支援しております。夜間は排泄パターンと睡眠のサイクルを考慮しチェックをおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	大豆製品、寒天、バナナ等の繊維質の多い食品を積極的に摂り、運動も併用し御利用者ひとりひとりに合わせ薬に頼らない便秘対策をしています。約10年前より毎日、ヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の予定は決まっているが、そのつど御利用者の御希望に柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、体内のリズムを整え活動性のアップを図っております。又、御利用者の体調や希望を参考慮してゆっくり休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は御利用者の口に入れ、確実に服用されたかの確認をし、状態に変化が現れた場合は速やかに医師に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事支援を含めて得意な分野で、お願いできそうな事をして頂き、感謝の気持ちを必ずお伝えしている。コロナ禍でも楽しめる行事や、ホームでのテイクアウト品の購入など楽しんで頂ける事を御利用者と一緒に相談しながら、すすめている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外出自粛等の制限が会社より発令され、御利用者の希望は叶えられなかったが、買い物代行等の出来る限りの支援をおこなった。外出の規制発令時以外は自宅で家族様と交流をされた方は何名かいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の意向によりお小遣いの所持をすることがなくなったが希望される方には立て替えを行い買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望でご家族様へ電話を掛ける事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルにを基本として、ホーム内の飾りつけは御利用者や相談し御希望にあわせて職員と共に制作し季節感の感じられる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや廊下に椅子を置き、居心地の良いくつろげる空間を作っております。仲良しの利用者様の会話の場所でもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やベッドなど使い慣れたものをお持ち頂き、馴染みの空間で過ごしておられます。お孫さんや息子、娘様のご家族様の写真を貼って楽しみに話をしてお下さる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者一人一人の理解力を判断しつつ、不安なく生活できるように状況に応じてその都度環境整備に努めている。		